

シンポジウムコメンテーターの コメント

2022年6月25日(土)

2022/6/25

学会シンポ・コメント(後藤嘉宏)

1

1

本日のシンポジウムのタイトル

- ・ 社会情報と情報メディア～図書館情報学を架橋に～

2022/6/25

学会シンポ・コメント(後藤嘉宏)

2

2

シンポジウムのタイトルについて等①

- ・ 東大新聞研究所→社会情報研究所→情報学環
- ・ 廣井脩社情研教授が日本社会情報学会(JSIS)設立準備で動くのに、付き添う
- ・ 閉学の数年前の図書館情報大学…博士課程を作るにあたり、図書館情報学研究科→情報メディア研究科に
- ・ 山本順一図情大教授が情報メディア学会設立準備に尽力される様子を眺める

2022/6/25

学会シンポ・コメント(後藤嘉宏)

3

3

シンポジウムのタイトルについて等②

- ・ 廣井先生も山本先生も院生の発表の場を増やしたいと仰っていた
- ・ 「新聞学」「図書館学」等、固有の学問領域が、情報やメディアに拡散し、呑み込まれる状況(「一般教養潰し」で群大のように教養部が社会情報学部(1993)になる例も)
- ←機械化、情報化、電子化で各学問領域のコンピュータ化
- ・ 『基礎情報学』(正)でいえば「情報はあくまでも非物質的存在であり、**実体概念ではなく関係概念**なのである」(西垣2004 11)状況によるといえる。

2022/6/25

学会シンポ・コメント(後藤嘉宏)

4

4

シンポジウムのタイトルについて等③

- ・ 実際同書では「**関係概念**」が頻出
- ・ カッシーラー「**実体概念から関係(関数、機能)概念へ**」
- ・ また本日のパネリストの発言も「**関係**」がキーワードかと
- ・ 私の研究対象、中井正一もカッシーラーに依拠し、戦後「**実体概念としての図書館から、機能概念としての図書館へ**」と唱えた

2022/6/25

学会シンポ・コメント(後藤嘉宏)

5

5

シンポジウムのタイトルについて等④

- ・ 「知りたい情報を得る」…中井の図書館の機能
- ・ NDL支部図書館制度によって、霞が関全体を国会図書館の機能を果たすものと捉える
- ・ Function 函数、機能、関係
- ・ 函数概念という場合、「論理の数学化」「判断の関数化」と中井は否定的に捉える(「委員会の論理」1936)
- ・ 「機能概念としての図書館」(1949)という場合は「場所」といった実体物に囚われない点を肯定的に把握

2022/6/25

学会シンポ・コメント(後藤嘉宏)

6

6

順序逆だが、長谷川先生の プレゼンへのコメントと質問①

- 8枚目「資料」から「情報資源」へ」という項目で、**ネットの情報も図書館資料の一つ**という趣旨・中井の「機能概念としての図書館」と通じる
- また長尾真先生のいう、電子情報が発達すると本とか雑誌とかいう**外枠が消え**、論文本体やテキストがそのまま**検索エンジンで検出され、レファレンスサービスが不要**になる(長尾1995)という状況にも照応。
- ただ本日の西垣先生の基調講演は司書のレファレンスサービスを重視されていた。

2022/6/25

学会シンポジウム(後藤嘉宏)

7

7

順序逆だが、長谷川先生の プレゼンへのコメントと質問②

- (質問)(必ずしも長谷川先生のみへの質問ではないが)司書の用務の中抜き化(不要化)、あるいは司書の外注化の状況を踏まえ、どのように「客観的知識の機械的検索でなく、主観的な意味構築のための行為」(西垣先生スライド⑬)と捉えるレファレンスサービスを実現していくか?
- (質問)あるいはこのレファレンスサービスを単に図書館でのそれに限定しない方向もある。その場合**レファレンスサービス概念をどう拡張するか?**

2022/6/25

学会シンポジウム(後藤嘉宏)

8

8

順序逆だが、長谷川先生の プレゼンへのコメントと質問③

- スライド10「データから価値を生み出す」について**データベース構築の側面とAI化・ビッグデータ化**は連続するであろうが、分けて捉えたい。
- **データベース構築**については『基礎情報学』(正)で範列的メディアと連辞的メディアを対照させている(西垣 2004 178)部分を参照したい。
- その前に「連辞」=「繫辞」

2022/6/25

学会シンポジウム(後藤嘉宏)

9

9

(参考)繫辞

- 「判断あるいは命題において主辞と賓辞との関係をいいあらわす言語的表現をこう呼ぶ。また連詞ともいう。形式論理学では“である”で表現するのがふつうである」(林達夫ほか編『哲学事典』)
- 「「である」「でない」のように、命題内容に対する話し手(書き手)の判断を提示することにより聞き手(読み手)の理解を容易にする統語論的装置」(北田暁大 2000 69)

2022/6/25

学会シンポジウム(後藤嘉宏)

10

10

順序逆だが、長谷川先生の プレゼンへのコメントと質問④

- 中井正一は『美学入門』(1951)映画はカットとカットを繋ぐ「である・でない」といった繫辞が不在ゆえ、受け手が繫辞を補い、受け手の主体性を喚起と(『美学入門』(1951))
- 西垣(2004)に戻る。
- 連辞的メディア・・・コミュニケーションの論理的な接続を保証(178)
- 範列的メディア・・・社会的文脈から比較的独立した、揺らぎのない「意味のストック」

2022/6/25

学会シンポジウム(後藤嘉宏)

11

11

順序逆だが、長谷川先生の プレゼンへのコメントと質問⑤

- このような「状況から独立して利用できる意味」(西垣 2004 185)を集めた「意味ベース」として事典・辞書類、データベースが挙げられ、DDCその他の分類法が『基礎情報学』(正)にて紹介される。
- (質問)ここで今日の基調講演に立ち返ると、「主観的な意味構築のための行為」(西垣先生スライド⑬)とは「範列的メディア」としてのデータベースなり資料を「連辞的メディア」の次元、それぞれの質問者の文脈に戻すこととも考えられる。具体的それをどのようにできるか?

2022/6/25

学会シンポジウム(後藤嘉宏)

12

12

順序逆だが、長谷川先生の プレゼンへのコメントと質問⑥

- つぎに「データから価値を生み出す」をビッグデータで考えてみると西垣先生が今日の司会者と共著で書かれた『AI倫理』(2019)が参照できる。西垣先生はAIとは、ビッグデータを活用するための技術(19)と述べた上で倫理学説を、功利主義、自由平等主義、自由至上主義、共同体主義の4つを挙げるが、「個人の人權を守るという点で、自由平等主義はグローバル時代にもっとも普遍的な説得力をもつ」(150)とする。
- この自由平等主義はカントの、人間は**目的として扱われるべきで手段として扱われるべきでない**という主張が根底にあるという(38)。

2022/6/25

学会シンポジウム(後藤嘉宏)

13

13

順序逆だが、長谷川幸代の プレゼンへのコメントと質問⑦

- (質問) **人間を手段とせず**といいつつ、ビッグデータを大企業が握れば、人間を金儲けの手段とするのは当然だし、政府が握れば、支配される人間を自らの権力行使の手段とすることは眼に見えている。それを防ぐ手段はあるのか？
- (質問) スライド14で図書館情報学を発展させていくために、情報メディア学との協調が大切というが、**学際学会がさらに学際性の必要性をいうと、「学際バカ」(広中平祐)養成になる可能性はないのか？**

2022/6/25

学会シンポジウム(後藤嘉宏)

14

14

河井先生のプレゼンへのコメントと質問①

- 「人材・物財・資金・情報などの資源」のうち最も重要なものを「担い手」といい、その担い手を「**関係人口**」(スライド7)という形で域外住民も含める。
- これは、「地域」なり「住民」を「実体概念」的に把握せずに「**関係(機能)概念**」として把握する考え方といえる。いわば「住民」という概念を「定住者」という実体概念的な把握をせずに、地域を支える担い手であれば、その定住者でなくても「住民機能を果たせる」と。
- EBPMIは定量化している(16)し、「各意欲の定量化方法」(19)は**いわば簡単な関数の提示ともいえ、関数概念化ともいえる**。

2022/6/25

学会シンポジウム(後藤嘉宏)

15

15

河井先生のプレゼンへのコメントと質問②

- (質問) カッシーラーのfunctionに「関数」という数学的意味と同時に、「機能」という人々の主体的な理解を促す面があったのと同様、このようなデジタル化された情報に、どのようにそれぞれの個人なりの地域にとっての意味を見出していこうとするのか？
- (質問) 先生の2017の紀要論文では「シティプロモーションは、定住人口の獲得や観光客の獲得や、地域内経済成長を目的とする総合計画や総合戦略実現に向けた基盤を造るもの」(123)とされている。機能概念的に「関係人口」という形で「地域」を捉えつつも、結局は定住人口と観光客の増加を目的としているのでは？

2022/6/25

学会シンポジウム(後藤嘉宏)

16

16

河井先生のプレゼンへのコメントと質問③

- (ほぼ同じ質問の言い換え) 要はスライド5の「多様な連携にそれぞれの方法で関与し、参画する担い手によって地域は成立する」という記述と、このシティプロモーションの定義は矛盾するのでは？それで結局スライド10の矢印の前の「担い手を奪い合う地域間競争」に戻ってしまうのでは？
- (質問) スライド33に、「地元」に「働く場がある」なしが出ていますが、ここの「地元」の範囲はどこまでなのか？というのも定住以上に地元就業はハードルが高いのでは？と思われるからである。

2022/6/25

学会シンポジウム(後藤嘉宏)

17

17

河井先生のプレゼンへのコメントと質問④

- (質問) そしてそれと関連するが、地元にはUターンしたくても農協漁協と町役場しか就職できる場所が地元がないという学生の声はよく聞く。「推奨意欲」を高めても、肝腎の就業の部分が欠けている地域ではどうなるのか？
- (質問) 10枚目のように「定住人口を奪い合うよりも」といっても、増田寛也『地方消滅』(2014)のいうように896の市町村が今後消滅するなかで、実際には奪い合いになるし、「地域連携を」というときの連携は近隣市町村ということであろうか？

2022/6/25

学会シンポジウム(後藤嘉宏)

18

18

西田先生のプレゼンへのコメントと質問①

- 先程来申し上げているように、西垣先生のご講演で、司書のレファレンスサービスを「客観的知識の機械的検索でなく、主観的な意味構築のための行為」(スライド⑬)と捉える視点は、重要な指摘。
- これは西田先生がスライド⑯で引く、「レファレンスサービスは、単に問題解決の手段を教えること以上に、相談者の心に寄り添う(バイザイン)というプロセスにもなっており、苦悩の中に意味を見出そうとする、意味ある苦悩を生きようとする生き方への支援でもある」(竹之内禎『生きる意味の情報学』)とも一致する
- 「情報はシステム自身の内側に生じる主観的な意味と不可分」という西田先生の趣旨もその通り。

2022/6/25

学会シンポ・コメント(後藤嘉宏)

19

19

西田先生のプレゼンへのコメントと質問②

- (質問)確かに本日の西垣先生の基調講演のように、文系の情報教育の必要性は大事であるし、西垣先生の引かれた根本先生の『アーカイブの思想』では欧米の書誌、ドキュメンテーションが常に人文主義の伝統を意識していたことが書かれる。しかし文系だった図書館学も新聞学も情報メディア学、社会情報学と転換させられる。文部科学省は文学部不要論を唱える。また実際、図書館学者・マスコミ学者のベルルソンの唱えた内容分析法も自然言語処理でできてしまう。その状況のもと、スライド3で理系情報学がすべてをカバーしそうな雲を描きつつ、「我々は決して覆い尽くせないことを知っているのでは？」という「我々」は誰か？

2022/6/25

学会シンポ・コメント(後藤嘉宏)

20

20

西田先生のプレゼンへのコメントと質問③

- 「函数概念」と「機能概念」と「関係概念」同じ原語だけど、ニュアンスがだいぶ変わると中井正一に即して申し上げたけど、スライド8でのループする関数によって、他律システムではなく自律システムになるという意味と理解できた。

2022/6/25

学会シンポ・コメント(後藤嘉宏)

21

21

西田先生のプレゼンへのコメントと質問④

- 私が外野で『基礎情報学』にいただいていた疑問
- 西垣門下の固有名詞なのか一般的な学問分野なのか不明。『基礎情報学』(正)で学問分野としての基礎情報学という言い方をしている文はあるが。
- 情報学の哲学的基礎を固め、それによって情報学における人文知・社会科学知を守る、そのために一般名詞としての「基礎情報学」が必要なのは同意する。

2022/6/25

学会シンポ・コメント(後藤嘉宏)

22

22

西田先生のプレゼンへのコメントと質問⑤

- しかし西垣先生の『基礎情報学』は**一神教的ものの見方**を批判する等(機械と生物を等値することの批判は妥当と思うけれど、生物と人間をどこまで分けるかで仏教文化とキリスト教文化とで差があるし、そこは日本でも千差万別)排他的な部分がある。
- (質問)今後広い意味での情報の基礎を問う必要性がある中で、西垣先生門下の「基礎情報学」学徒として、どこまでが他の系列の「基礎情報学」研究者と連帯できる線なのか？

2022/6/25

学会シンポ・コメント(後藤嘉宏)

23

23

西田先生のプレゼンへのコメントと質問⑥

- また本日の基調講演で口頭では丸山真男の『日本の思想』への日本文化批判への言及があったし、西垣先生の引かれていた根本先生『アーカイブの思想』も第9講で『日本の思想』を引きつつ、日本のアーカイブ思想を、パイディア(口頭での討論を通じて徳を高める)と結び付けえなかったと批判している。本日の講演でも前半は日本の遅れを強調しつつ、後半は「データ至上主義への反発は日本だけではない」という形で反アメリカの部分が出ている。

2022/6/25

学会シンポ・コメント(後藤嘉宏)

24

24

西田先生のプレゼンへのコメントと質問⑦

- (質問)西垣『基礎情報学』の継承者として、日本を国際化する理論として自分の「基礎情報学」を構想したいのか、それとも日本あるいはアジアの発想の独自性に着目して「基礎情報学」を構想したいのか、そしてそれはどの程度汎用性をもたせうと考えているのか？
- これら最後の二つは時間があれば河島先生にもお聞きしたい質問。

2022/6/25

学会シンポジウム(後藤嘉宏)

25